

「始めと終わりのあいさつだけはきちんとしたい」という木村さん。



講座風景



「難しいけれど、楽しい」と浴衣姿のかわいらしい羽沢さん。

学校をサポートするという体制が定着したら画期的だと思います。教育委員会が次々に打ち出してくる時代の流れに乗った事業。その達人講座を通してかかわってくれた地域の方々。そして、現在、教育委員会で計画中の「子どもまちづくり事業」では、実際に製品の生産や販売もするので、企業や商店の協力も必要となってきます。学校にすべて任せきりにするので

学校を支えることは
まちづくり・ひとづくりに

できませんでした。ただ、回が進むに連れて参加人数が減ってしまった講座もあるとお話も伺いました。講座を盛り上げ、より効果を上げるには、子供の心をつかみながら付き合うことも大切であるということも分かりました。

はなく、地域全体で応援できる体制が、大館市では進行中です。もちろん当たり前のことですが、「しつけは家庭で」ですよね。私自身そのことを再認識した上で、大館市の良い事業をうまく取り入れながら「子供たちの生きる力を伸ばしていつてあげたい」と心から思っていました。

今、子供たちは、人との関わりが少ないとも言われています。何をやるにもそうだと思いますが、新しいことを始めるときは面倒だし、何より勇気がいると思います。子供たちにとって、大人の忙しさや都合で貴重な経験ができないのは不幸なことです。地域全体で学校を支えることが、大館市のまちづくり、ひとづくりにつながることを実感しました。学社連携・融合。連携できて、融合までたどり着くこと、そこまで行けたらと心から思います。学社連携が、なお一層前進することを願って、今回のリポートはここで終わりたいと思います。ご協力いただきました関係者に感謝いたします。ありがとうございました。

「お正月明け、子供たちと一緒に餅つき大会をしたいんだけど、手伝ってくれるかたはいるかしら……」 独り言でした。(完)